2018 年度 小委員会活動成果報告

（2019　年　2 月　18 日作成）

小委員会名	西洋建築史小委員会	**主 査 名**：星　和彦 **就任年月**：2016　年　4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	建築歴史・意匠委員会	**委員長名**：石田潤一郎
設　置　期　間	2017　年　4 月　　～　　2021　年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	1. 若手研究者の育成･強化策、ならびに西洋建築史研究全般の展開について議論、検討、実行する。 2. 国際的な研究動向をふまえ、新しい研究活動、研究領域の拡大、隣接研究分野との学際協力の可能性、および日本における西洋建築史研究のありかたについて議論、研究する。 3. 学術的国際交流促進の方法について議論・検討し、関係する情報の流通・公開の促進を図り、小委員会としての役割を検討する。 4. 『西洋建築史図集』の改訂への基礎作業と、その一環として、「デジタルアーカイブ」と「西洋建築史用語集」の作成の必要性と可能性について議論・検討し、試行する。 5. 西洋建築史研究の展開の今後の方向性、その活性化と若手研究者の育成を目的に、「西洋建築史」という枠組みにおける諸問題を検討し、研究交流の促進と研究基盤の形成を図る。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：無 主査：星和彦（前橋工科大学） 幹事：伊藤喜彦（東海大学）、戸田穣（金沢工業大学） 委員：伊藤大介（東海大学）、稲川 直樹（中部大学）、海老澤模奈人（東京工芸大学）、大橋竜太（東京家政学院大学）、加嶋章博（摂南大学）、加藤耕一（東京大学）、 太記祐一（福岡大学）、中島智章（工学院大学）、西田雅嗣（京都工芸繊維大学）、堀賀貴（九州大学）、横手義洋（東京電機 大学）、吉武隆一（熊本大学）	
設置 WG （WG 名：目的）	『西洋建築史図集』WG 現行の『西洋建築史図集』の問題点の洗い出しは終了し、改訂『西洋建築史図集』の構成・内容の検討、及び執筆形態・写真等の取り扱い、執筆予定者の検討も実施した。執筆者主体の WG への改編を検討する。『西洋建築史用語集』の 可能性についても平行して検討していく。 西洋建築史の諸問題 WG 西洋建築史小委員会では、日本における研究の護持・活性化と、若手研究者の育成・強化を設置目的のはじめにかかげている。しかしながら従来、時代・地域・言語を異にする研究者間での研究交流が十分であったとはいい難い。また、西洋建築史研究の最前線は、若手研究者によってもたらされるところが大きい。本 WG では、研究の活性化と若手研究者の育成を目的に、若手研究者も含めた委員構成で、「西洋建築史」という枠組みにおける諸問題を検討し、研究交流の促進と研究基盤の形成を図ることを目的とする。	
2018 年度予算	170,000 円	**ホームページ公開の有無**：有 **委員会 HP アドレス**：http://news-sv.aij.or.jp/rekishi/s5

項　　目	自己評価
委員会開催数	2 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	

催し物 （シンポジウム･セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	今年度から、新たに書評会を開催することとした（戸田委員の提案）。建築学会会員以外の参加者もあり、活発な議論が行われ、本委員会の活動の活性化を図る試みとなった。次年度以降も継続していく。また、年度末に国際シンポジウム（堀委員の主催、国際シンポジウム「古代ローマの危機管理」）にも協力する。さらに、WG（西洋建築史の諸問題 WG）も立ちあげ、来年度の大会 PD も主催することになっており、当初の計画以上の成果を上げることができた。すでに設置している『西洋建築史図集』WG は、活動の方向について再検討したい。 １．書評会「加藤耕一『時がつくる建築』を読む」（参加者数　50 名） ２．書評会「後藤武、『アナトール・ド・ボドーのシマン・アルメ建築生成に関する研究』を読む」（参加者数　40 名）
委員会活動の問題点・課題	１．委員会は、新 WG の設置検討もあり、2 度開催し、そのほか随時メール審議を実施した。また新たに書評会を設けて、2 回開催した。上記の目標を考えると、予算、時間の面での制約はあるものの、活性化が進展したといえる。来年度は建築学会大会で PD を主催するので、気をつけて取り組みたい。 ２．書評会、新 WG、国際シンポジウム後援など、委員の積極的な提案をもとに、新たな試みにも着手できた。 ３．西洋建築史図集の改訂作業が滞っていることは、反省すべきと考えている。